

専攻科便り

なすべきことを 責任を持って実行する 専攻科長 嶋田 浩和

専攻科長の嶋田です。本年もよろしくおねがいします。

本年度の専攻科の状況は次の通りです。昨年度は、MC専攻14名、ES専攻15名全員が学士(工学)の称号を修得し、修了しました。またMC専攻15名、ES専攻7名の計22名が入学し、2年生MC専攻17名ES専攻12名と合わせて総数51名となりました。

現在2年生の皆さんは、修了に向け自分のなすべきことを見定めて着実に実行しているところでしょう。また、1年生は、入学して半年が経過し本科との違いを感じ戸惑いながらも自分の選んだ学生生活を満喫していることと思います。今後は自分の将来像を描き、今後その達成に向け計画を立て実行していくこととなります。初心を忘れずしっかりと進んでください。

一方、教員について考えます。学生諸君が質の高い教育や研究を享受するためには、当然その能力を持った教員が必要となります。得られた教育研究成果を積極的に公表することも求められています。そこで昨年度に専攻科を担当する教員として本校における資格を次のように明確にしました。教員は5年に2本の論文発表、専門学科の准教授および教授は学位授与機構における特別研究の指導教員としての認定を受けることとしました。また教員の能力を高めるためには少なからず教育研究費が必要となります。教員一人当たりの外部資金の獲得目標が高専機構本部より示されています。外部資金は専攻科における特別研究の環境にも影響を与える重要な要因です。教員はこれらの獲得に向け日々活動を行っています。

このようにそれぞれの立場で達成すべきことに向け、責任を持って実行することが専攻科にとって重要なこととなります。これらが実行できるように今後推進していきます。

機械・環境システム工学専攻 MC専攻主任 軽部 周

本年度のMC専攻2年生は、就職12名(うち公務員3名)、進学5名の計17名です。学生諸君の頑張りにより、企業就職組は6月中旬までに全員内々定、大学院進学組は7月末までに全員合格、公務員組も8月末までに全員内々定を取ることができました。このクラスは、授業に来る先生方から「教室が整理できていない」などとクレームが来ることも多々ありましたが、定期試験が始まる時には教室をきちんと掃除する、オープンキャンパス等の準備も積極的に参加してくれる、など「やるときはやる」メリハリの効いた姿勢は立派です。就職・進学が比較的スムーズに進んだのも、皆さんの底力が認められたためだと思います。

これからは、学位取得・専攻科修了という最後のハードルが待ち構えています。互いに協力しながらクラス全員がクリアできることを祈っています。専攻科修了後の輝かしい未来に向け、諦めずに着実に進んでいって下さい。

電気電子情報工学専攻 ES専攻主任 本田 久平

ES2年生のクラスは、彼らが2年生になってから担任を任せましたが、全体的に明るく温かいクラスで、担任として非常にやりやすく感じています。情報科出身の学生が多く、就職も進学も情報系に興味を持っている学生が多いようです。進路希望の割合は、就職希望者6名、進学希望者6名と半々です。就職については、6月末までに全員が内々定を頂き、進学についても、大学院の推薦組は順調に合格を頂いています。大学院の学力組については、今のところ結果待ちですが、希望するところに合格してくれることだろうと思います。これから学位取得のための研究の遂行やまとめ等に気の抜けない日が続くかと思えます。専攻科修了のための英語資格取得と学外発表がまだの人もいますので、学位取得とともに専攻科修了に向けて全力を尽くしていただきたいと思えます。

専攻科に入学して MC専攻1年 秦 明弘

私は機械工学科から専攻科に入学しました。専攻科ではこれまで学んでいた機械工学の内容をより深く学ぶだけではなく、都市・環境工学の内容も学びます。また専攻科では本科に比べ他学科との交流が増えてきます。例えば一年次のあるプロジェクト実験では講義の最初に与えられた課題を各学科の学生がチームを組んで、本科で学んできた知識を活かして、課題に挑みます。各々が持つ知識を出し合い、様々な制約条件下の中で実現可能性を考慮し、自らにできることを考え行動します。講義の中で自分が持つ専門知識を他学科の友人に教える機会がある事やその逆の事もあるなど他学科との交流は自分にとって大きな刺激にもなります。

専攻科で過ごす2年間はとても短いですが、限られた時間の中で自分自身と向き合い将来の為に成長する重要な期間です。この期間の中で自分がどれだけ成長できるか大きなチャンスだと思います。

専攻科に入学して ES専攻1年 石丸 大稀

私は情報工学科から専攻科へ入学しました。専攻科では情報工学だけでなく、電気電子工学の内容も学びます。本科でも実施していたPBL(Problem Based Learning)を全学科で行うプロジェクト実験Iでは、与えられた課題に対する解決策など違う分野の考え方を知り、作品を一から作り上げることで、自分の視野を広げることができました。専攻科は2年間と短く、あっという間です。自ら時間を作り研究を行い、資格試験の勉強を行うなど時間を有効活用しなければなりません。さらに、現代社会において英語能力は必須となってきています。TOEICだけでなく、学校行事で行われる短期海外留学や交換留学等を利用することで、実際の英語に触れ、グローバルな社会で活躍するためにも、自分の将来を見据え、少しでも糧となるように日々努力を重ねていきたいと思えます。